

ふれあい

第 181 号

令和 6 年 1 月
青森県立中央病院
(題字は藤野院長)



県立中央病院 メンタルヘルス科の 各職種よりの御挨拶

メンタルヘルス科部長
佐藤 靖



当科医師より

令和5年4月より秋田県大館市の大館市立総合病院精神科より当院メンタルヘルス科に着任した佐藤靖です。平成15年3月の弘前大学卒後、単科精神科病院や数カ所の有床総合病院精神科で複数名の同僚と就労も、当科の様な無床総合病院で精神科医1名で働くのは初めてです。主に午前中は精神科一般再来、午後は病棟のリエゾン業務を行っておりますが、当然医師1名なので、日常的に新患者さんや精神療法的介入を要する難しい患者さんに十分な診察時間が取れず、また、突然の精神科医療ニーズへの対応困難さという構造的問題は悩みの種です。

ちなみに、リエゾン業務とは、主に他病棟入院中や他科通院中の精神疾患の方々、例えば、統合失調症や気分障害などで精神科に通院中の患者さんが肺炎や悪性腫瘍など身体疾患に罹患したり、主に入院中の患者さんが不眠症やせん妄などを生じた際に、円滑に身体的治療が円滑に進むように、精神科認定看護師やPSW (MHSW)、公認心理師など精神科リエゾンチームによる多職種連携の元、縁の下での力持ち的立ち位置で、患者さんに精神科医療を提供することです。限られた時間と情報の中、迅速かつ効果的な精神科医療サービスの施行が問題です。

有床と無床とでは、入院治療サービスの提供能力の可否という大きな差がありますが、近年、精神科ないしメンタルヘルスなニーズの拡大を実感します。例えば、発達障害や不登校などの小児科、周産期・不妊などの産婦人科、認知症、老年期精神障害など老年期などのライフサイクル分野、癌や非癌(認知症、心不全、COPD、慢性腎不全・透析など)などの緩和領域、ペイン・心療内科領域、自殺企図後などの救急領域など各分野・領域の中で、精神科的・心理的な問題、メンタルヘルス的問題を抱えた様々な方々がいらっしゃいます。

「メンタルヘルス」とは、「個人が自分の能力を發揮でき、日々のストレスに対処でき、生産性が高い状態で働くことができ、コミュニティに貢献できる良い状態」とWHOで定義されており、非常に広い概念です。そういう意味では、精神科のメンタルヘルス科への改称は時宜を得た物と思いますが、この定義を満たせる医療サービスは、今までの精神医学・精神科医療の枠では不可能であり、精神科医・医療スタッフ不足が叫ばれる青森県の限られた医療資源の中、ただの精神科医に過ぎない精神科医である自分には知識もスキルも態度も足りない物が多く、個人として、組織として、今何ができるか、これから何を身につけていくべきかを模索中です。

現在、診療制限など地域の先生方・患者様には色々お手数をおかけしており、本来の精神科的サービスすらも十分提供できていない中、大口を叩くことはできませんが、現在、当科および院内各科の医療スタッフの信頼を獲得すべく、通常業務をこなしつつ、「働き方改革(人は増えずとも、無駄を省き、時間当たりの医療サービスの質の拡大を企図する)」を模索中です。何とか業務拡大を図っておりますが、精神科医療ニーズが緊急に発生した場合は致し方ありませんが、頼診の際は、前日までに外来へ御連絡頂けると事前の準備など対応がしやすく大変助かりますので、引き続きよろしく願いいたします。

当科看護師より

現在メンタルヘルス科では2名の看護師が在籍しています。そのうち1名が精神科認定看護師です。精神科認定看護師は日本精神科看護協会が認定する資格であり、規定の研修会や病院実習を経て試験に合格する必要があります。看護師の主な役割は外来業務と精神科リエゾンチーム活動です。当科では外来診療の他に入院中の患者を対象とした『精神科リエゾンチーム加算』を算定しています。当院における精神科リエゾンチーム構成職種は精神科医、看護師、精神保健福祉士、公認心理師です。精神科認定看護師が在籍していることは精神科リエゾンチーム加算の算定要件の一つとなっています。

当科では入院中の患者について主科から診察依頼があったケースについて精神科リエゾンチームとして介入しています。主な依頼内容としては、

せん妄のある患者さんの治療、不眠、不安が強い人、精神疾患の既往がある患者さんの入院中の薬剤調整、精神疾患の疑いのある人の評価、ケースワーク、心理支援などが挙げられます。上記のような依頼に対して精神科医を中心として多職種で支援を行っています。入院期間中に支援できることは限定的ですが、退院後の治療や支援が継続できるように多職種が協働で関わっています。

当科精神保健福祉士(MHSW)より

精神保健福祉士は院内に3名おり、所属自体は臨床心理支援部ですがメンタルヘルス科外来や精神科リエゾンチームとしても活動しています。元々精神保健福祉士は『Psychiatric Social Worker (PSW)』と略されておりましたが、活動の幅や社会の求めが広がっていることや世界基準に合わせ令和4年より精神保健福祉士は『Mental Health Social Worker (MHSW)』と英語表記は変更となりました。15年以上前は、統合失調症・認知症・アルコール依存症の方の生活の立て直しや治療の継続が出来るよう支援していたのが主であり、支援対象者は精神病を有する方だったように思います。その後うつ病や気分障害、発達障害の方の就労支援が増えました。最近は、「死にたい。辛い」をきっかけに面談を行った結果、家族関係や借金問題の支援を行うことも増えており、精神科病名がつかない方の支援も多くなってきたように思います。そのため確かにPSWではなく、MHSWに名称が変化したように、精神疾患を有する方の支援から『精神的な健康が損なわれた方』を支援する職種になったのだと実感しています。

『ゆりかごから墓場まで』の精神で、生きていれば様々な要因で精神的な健康が損なわれるときがあると思いますが、求めに応じて私たちに出来る支援や専門職への橋渡しを今後もしていきたいと思ひます。

当科公認心理師より

現在、3名の公認心理師が他領域と兼務しながらメンタルヘルス科の業務を担当しています。2017年度に臨床心理支援部が発足して以降、「臨床心理士」が院内でも周知され、患者さんの身体だけでなく心についても注目していこうという雰囲気、当院において年々高まっていると感じています。昨今では、心理職としては初めての国家資格である「公認心理師」が誕生。それに伴い、診療報酬の加算対象となる業務が徐々に増え、要請に応えるべく研鑽を積み重ねているところです。メンタルヘルス科では、外来や精神科リエゾンチームで対応中の患者さんの心理面接や心理検査を医師の指示のもと行っています。自殺企図後や事故によるケガ、がん、慢性疾患などの身体疾患を抱える方のお話を聴くことを通して、ご本人の抱える問題の整理や不安や悲嘆といった感情の表出、必要に応じて他職種への橋渡しを主に行っています。心理面に限らず、身体、社会といったいわゆる包括的なアセスメントと、それに基づいた支援や橋渡しを行う役割が求められていますが、そこに総合病院ならではの難しさとやりがいを感じています。医療全体の枠組みの中で心理職ができることはごくわずかですが、患者さん自身が本来もっている健康であろうとする力を再発見し、

小さな一歩を踏み出せるよう足下に光を灯す、そのような関わりができればと考え、日々活動しています。

当科事務より

医師事務は裏方として診察や自立支援、精神障害者保健福祉手帳等の書類に係わる業務のサポートをしています。



当院では各種 SNS から取り組みやイベント、日々の出来事などを紹介しています。ぜひご覧ください。

■ Facebook (フェイスブック)



■ Instagram (インスタグラム)



患者さんやご家族のための

県立中央病院近く

宿泊施設のご案内

◎遠くから県立中央病院等へ通院・入院する患者さんや、付き添われるご家族のための宿泊施設です。



宿泊(1室1泊 前金制 税込)

シングル	(全8室)	2,500円
ダブル	(全1室)	4,000円
ツイン	(全2室)	5,000円
駐車料金	(1台)	100円

【利用案内】

- ◆下記の電話番号へご連絡下さい。直接来館しての申込も可能です。
- ◆日帰り休憩も可能です。(2時間600円～)
- ◆周産期の患者さんやご家族は、ダブルを2,500円で利用できます。

【受付時間】

月曜日～土曜日 8:00～18:00

チェックイン 13:00～17:00

チェックアウト 8:00～11:00

※上記時間外の対応も可能です。

MAP



ファミリーハウスあomorい



〒030-0913
青森市東造道1-3-1
<https://www.familyhouse-aomori.jp/>

【管理・運営】NPO法人青森地域再生コモンズ

【施設概要】

客室設備：ベッド、エアコン、テレビ、冷蔵庫、机、椅子、電気ポット等
共用設備：トイレ、洗面所、シャワー室、電子レンジ、コインランドリー
その他：タオルや石鹸などアメニティ類は備え付けておりません。(有料貸出・販売での対応)

【ご予約・お問い合わせ】

☎ 017-736-5332

- ◆お電話にて、氏名・連絡先・希望の宿泊日(日程、人数)等をお知らせください。
- ◆当日予約や休日(日・祝)の宿泊も可能です。
- ◆夜間や休日は転送電話での対応になりますので、急患などの場合を除き、なるべく受付時間内にご予約・お問い合わせください。